

家族と一緒に、歳をとろうよ。



木ままびと。



K I M A M A B I T O



木に囲まれた、
気ままな暮らし。

Before & After Story #03
Since 2014

インテリアの冒険も、
増え続ける緑も
無垢の木なら
受けとめてくれる。

Model House Discovery #3

築 50 年の家を
リフォームして 11 年。
家族の思い出とともに、
これからも。

インテリアの冒険も、増え続ける緑も 無垢の木なら受けとめてくれる。



Before -2014-
↓
After -2023-



1・2) 木質感の多さや暖炉、使い込まれたヴィンテージ家具などにより、新築時からリラックス感に満ちていたお住まい。9年の間に木の色合いが深まり、程よくモノも増え、いい意味での生活感がうかがえるようになりました。

3・4) インドアグリーンが増えたことでリラックス感も倍増。「リビングのソファでお昼寝するのが幸せですね。ちょっと自然光が射し込む中、寝転がって下から植物を見上げるのが最高なんです」と奥様。

since 2014

Before & After Story #03

いろんなエッセンスが
混じり合い、
時を経て“こなれ感”に。

ご夫婦ともに一級建築士の資格をお持ちで、住宅関連のお仕事をなさっているKさま。2014年にお住まいを新築された際のコンセプトは「染色」でした。千色で染まっても似合う家にしよう—そんな思いでコーディネートされたインテリアには、いろんな色、いろんなテイストが絶妙に混じり合っています。

たとえば、北欧の白夜に似合いそうな黒い暖炉のそばに、西海岸の爽やかな青空を思わせるストライプのソファ。非凡な組み合わせでありながら、お二人ならではのセンスを象徴するかのように、違和感なく空間になじんでいるのが不思議です。

「前回、取材を受けた時にもお話ししたかもしれませんが、じつは僕の実家、暖炉の販売代理店なんです。新築祝いにプレゼントしてもらって、薪も実家から調達しています」とご主人。「この暖炉にこのソファを合わせるの、もう感覚だけでやってる感じですね。ウチに来る人からは、自分たちにこういうコーディネートは無理！って言われますけど(笑)」。

一方、奥様は「インテリアで冒険したがるのは主人のほうかな。私はもう少しナチュラル志向で、無難に走りがち。それでバランスが取れているのかも」とのこと。「あっ、でも赤いドアは私も乗り気でした」。リビング階段の隣に取り入れた、赤い塗装のドア(ウッドワンのオーダーペイントドア※現在は廃盤のカラー)は、吹抜けに設けた赤の手すりと合わせたもので、奥様がショールームまで足を運んで出合ったそうです。「チェッカーガラス(※現在は廃盤)なので、ちょっと可愛い雰囲気になってしまうかな?って心配だったけど大丈夫。ちょうどいいアクセントでしたね」。さまざまなエッセンスが共存しながら、時を経て“こなれ感”も加わり、ますます心地よい住空間となっています。



室内外に息づくグリーンが癒し。

新築から今までの間に、明らかな変化がひとつありました。それは、室内外の「グリーン」の数と量が増えたこと！室内については、2階の吹抜けに面した手すり下にも、ご主人がDIYで有孔ボードを取り付け、たくさんの植物を掛けられるようにしました。フェイクグリーンはひとつもなく、すべて本物。「家の中だと光量が足りなくなるので、スポットライトも付けました。じつは人工照明のほうが、安定した光できれいに育つんですよ」と、すっかり植物に詳しくなられたご主人がおっしゃいます。

また、Kさま宅にはウッドデッキが設けられていますが、ここにも多肉植物から水生植物まで緑がいっぱい。「会社にある植物を少し切って、挿し芽にして育てたものもあります。今は会社のよりもキレイですよ」。緑に囲まれたウッドデッキは室内とフラットにつながっているため、一体的に使うことが可能。普段、お茶を飲んだり食事をするほか、友人たちとバーベキューを楽しむこともあるのだとか。



FAMILY PROFILE

Kさま

2014年、千葉県流山市の静かな住宅街にスタイリッシュなお住まいを新築。当時お話を聞かせていただき、今回9年ぶりに二度目の取材となりました。

使用キッチン

su:iji ウォールナット
落し込み框組フラットパネル クリア塗装



5) フローリングは、お仕事関連のルートで手に入れたウォールナットの無垢材。「本物の無垢だと、経年しても劣化するというより味わいが出るようになります。水ジミなんかはどうしても付くんですが、僕らは気にしないし、気にならないですね」
6) ウッドデッキのある庭で、とりわけ背の高いミカンの木。『不知火(しらぬい)』という品種で、小さな苗木から大きく育って実が付くようになり、時の流れを感じているそうです。



少しずつ自分たちのスタイルをつくりあげてきたキッチン。



Before -2014-



After -2023-



su:iji ウォールナット 落し込み框組フラットパネル クリア塗装

新築時、キッチン空間は、対面式のレイアウトにするとスペースを取るので壁付けにすることに。「最初は引き戸なんかでキッチンを隠すことを考えたんですけど、予算がかさむ。それなら、見えてもいいキッチンにしようって」とご主人。「仕事柄、いろんなメーカーさんのキッチンを見ていましたけど、見えても素敵なキッチンはやっぱりスージーなんですよ」と奥様。扉の樹種は、フローリングに合わせてウォールナットを選ばれました。

その当時から今まで9年の間に、自分たちらしいキッチンの使い方や、ご夫婦間での役割分担がスタイルとして固まってきたようです。まず大きく変わったのは、キッチン上の空間に吊り棚が加わったこと。モノづくりの得意なご主人がDIYされたもので、お気に入りの道具が並べられ、新築時と比べるとキッチンが生き生きと楽しげに見えます。

普段、お料理するのはご主人で、奥様は洗い物を担当されているそう。奥様いわく「植物やDIYにハマったこともそうなんですけど、主人は“凝り性”なんですよ。料理も道具からすごくこだわって、どんどん腕を上げて。だからもうお任せしちゃいました!」。ご主人は特にパスタがお上手で、たくさんソースを作って冷凍ストック。自信作の「ポロネーゼ」は、お店のような味わいなのとか。

また、キッチンに食洗機は付けませんでしたが、これについては今でも「正解でした」とのこと。「壊れると面倒だし、

食器の入れ方に気を遣ったりするよりは、自分でガシガシ洗ったほうが早いかなと。不便には感じていません」と奥様が語ってくださいました。

さらに、昔から憧れていて新築を機に購入された『ACTUS』で購入したTECTAのダイニングテーブルは、「実際に暮らしてみると、意外とここでは食事をしませんでした(笑)。リビングの低いテーブルに置いて食べちゃうんですよね。ダイニングテーブルは在宅ワーク時の仕事場になったり、料理中の作業台になったりしているんですけど、それはそれで便利」。

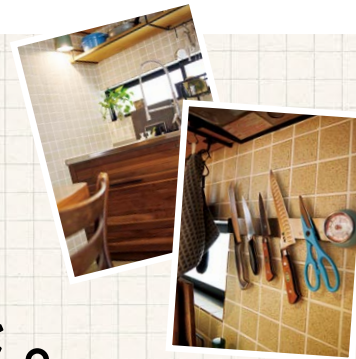
他にも、「使い始めてから手前にレバーがあるほうがいいなと気づいた」と、水栓をご自分たちで取り替えるなど、細かなアレンジを加えて現在のキッチンに落ち着いたそうです。でも、まだまだ進化しそうなKさま宅。「主人がここまでDIYに没頭するとは思わなくて。キッチンの吊り棚や吹抜けの有孔ボードだけでなく、実はウッドデッキや、そこに置いてある鉢のカバーやゴミ箱も主人が作ったんですよ。工房的な部屋を設ければよかったと思うくらい」と奥様。さあ、次は何が生まれるのでしょうか。新築の完成時をゴールと捉えず、その後も自分たちの使い勝手にアンテナを張り、柔軟に受け入れたり変えたりする。それが長く快適に暮らすための秘訣なのだ…と、あらためて教えていただけるお住まいでした。



ご主人の審美眼が感じられる道具たち。「つくる」から「運ぶ」「洗う」まで、奥様との連携も阿吽の呼吸です。



my kitchen's point!



だから、このキッチンが好き。

「見えてもいいデザイン」であることを基準に選んだ「スージー」。
無垢の木の質感が最大限に活かされていることはもちろん、使い始めてからも
自分たちの感性に合うようにアレンジを加えたことで、愛着もひとしおです。



point 01 タイルで囲むことで 映える佇まい

壁面の一部をタイル貼りにするのはよくあるコーディネートですが、Kさま宅のキッチンは周囲が全面タイル貼りでインパクト大。「壁付けのキッチンはお客様から見えるので、ここはコストをかけてもいいかなと思い切りました。無垢の木を使ったスージーは、土を焼いたタイルと相性抜群。キッチンの機能はどこのメーカーもそれほど変わらないので、大きな違いはデザインですね。スージーは、木を主役にしたインテリアがお好きな人には本当におすすめだと思います」と、ご主人が住宅関連のお仕事をされているプロの視点も交えて語ってくださいました。

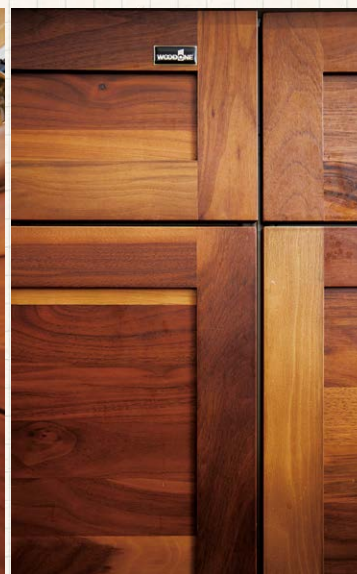


point 02 絶妙にバランスのいいスペース配分



お料理担当のご主人は、「ワークトップの広さがちょうどいい。作業スペースと、シンクの幅と、それ以外のバランスが絶妙だと思います」。洗い物担当の奥様は、「シンクが広くて使いやすいし、掃除もしやすい。収納も、深い引き出しに大きなお鍋がすっきり入って助かっています」

point 03 框組が美しいウォールナット面材



ナチュラル志向の奥様は、深みのある色合いのウォールナット材を使った面材がお気に入り。「いい感じの木目、ムラ感。框組のデザインも大好きです」。軽く水拭きするだけで汚れも落ちやすいため、9年経った今もほとんど表情が変わることなく、美しい佇まいを見せています。





FAMILY PROFILE

Ｔさま

11年前、築50年ほどのお住まいをリフォーム。門構えなどの日本家屋らしい趣はそのまま残し、奈良の歴史ある街並みに調和させています。



使用キッチン
su:iji ニュージーパイン®
落し込み框組フラットパネル
ナチュラル色

#3

築50年の家をリフォームして11年。 家族の思い出とともに、これからも。

2013年のリフォームは、お子様たちが独立し、これからの暮らしを考えたことがきっかけでした。元のお住まいは、ご主人のお父様が建築技師の腕を活かして約50年前に建築。キッチンが独立したL字型でしたが、リフォームを機にダイニングとつなげ、家族にもお客様にもオープンな「壁付けのI型キッチン」+「カウンター収納」へとレイアウトを変更しました。奥様によると「それまで使っていたキッチンは、扉が木じゃなくて冷たい感じだったんです。木はあたたかみがあるし、汚れが目立ちにくいと聞いてスージーにしました」。さらにLDKの床材も、キッチンと同じニュージーパイン®材のピノアースを選ばれました。

それから11年。リフォーム以降、長く暮らしたうえでの実感として、一番お気に入りなのは「食器の収納」だそうです。「リフォーム前は

大きな食器棚が2つもあって、中にはあまり使わない食器がたくさん。それをカウンター収納に変え、よく使う食器だけを引き出しに仕舞ったら、ひと目で見渡せて使いやすくなりました」。カウンターの上に、季節のお花を飾ったりする楽しみも生まれたとか。I型キッチンもカウンター収納も、お手入れは硬く絞った布巾でサッと拭くだけで美しく保たれています。

また、無垢の木の床は冬でもヒンヤリせず、スリッパ無しで過ごせているそう。色合いも程よく深まり、アクセントとしてリビングに貼ったディープブラウン色の羽目板とも調和していました。今はお隣に息子さん家族が住み、お孫さんたちがしょっちゅう来てくつろいでいるそうです。家族の歴史を刻みながら、リフォームによって快適性を増したお住まい。この先も末長く受け継がれていくことでしょう。



お子様たちの誕生日ごとに印をつけていた背比べの柱。リフォーム時、「残しましょう!」という工務店さんの社長の一言でそのままにしました。畳をフローリングに変えて床が下がった分だけ、踏み台を作ってもらい、今はお孫さんたちが楽しく背を測っています。



ピノアースフローリング ナチュラル色



羽目板ピノアース ディープブラウン色

ピノアースフローリング ナチュラル色



子どもの健やかな育ちを 無垢の木の床で支える 取り組みが始まっています。

無垢の木にこだわり、床材やキッチン、建具などを展開しているウッドワン。その中でも、凹凸のある表面加工をほどこしたフローリング「ピノアース 足感(そっかん)フロア」は、子どもの皮膚感覚に豊かに影響し、足の正しい成長、すなわち人間にとって必要な成長を促すことを期待して保育現場での導入事例が増えています。

＼ 床育 REPORT ／

「足感フロア」を導入された 園長先生にお話を伺いました。

case 01



社会福祉法人
やまびこ会
愛育保育園



ピノアース 足感フロア
(スプーン)

「以前、転びやすい子どもや、すぐ『疲れた』と言う子どもが増えてきたように思い、足を育てることを重視するようになりました。床については10年近く前に張替えたのですが、また傷みが目立ってきたので足感フロアを採用することに。1階と2階、保育スペースの全面に取り入れました。当園ではリズムあそびを毎日行なっているのですが、その際に全身で床に触れるので、足感フロアは良い刺激になっていると思います。ハイハイや高這いをするのにも、床の凹凸がほどよいサポートになっているようです。冬にあたたかいことにも驚きました」

(園長:山下 由美子 先生)





woodone new series

新シリーズ「 WO 」登場。

上質で時代に左右されず、
暮らすうちに味わい深く変化していく。

木質総合建材メーカーのウッドワンは、プロダクトデザイナーの深澤直人氏をディレクターに迎え、上質で時代に左右されず、暮らすうちに味わい深く変化していく新しいコレクション「WO Timeless standard collection」を2024年より発売いたします。

建材は生活の大切な要素であり、そこから心地よい空間が生まれます。

ウッドワンは「スクラップ&ビルド」ではなく、生活の向上に役立つ建材メーカーを目指しています。

創業から木のプロフェッショナルとして活動してきた当社が、木材の魅力を最大限に活かした幅30cmの床材にはじまり、ドア、キャビネット、階段、手すりなど、木製の統合された建材をご提案いたします。

ウッドワンが30年をかけて育んできた、循環型のニュージーランドの森から生まれる美しくソリッドな建材を是非堪能ください。



WO web サイトのご案内
<https://www.woodone.co.jp/product/item/wo/>
ウッドワン WO 検索



web サイトのご案内
<https://woodone.jp>
ウッドワン kimama 検索
「木と、くらそう。」木と人のかかわりをいろいろな角度から見つめるサイトです。



Instagram のご案内
Kimama.
木のある暮らしを、もっと気ままに。
いろいろな物語を、一つずつ、ていねいに集めています。
#kimamaな暮らし